

会報

千葉商工会議所

夢ちば

シテイ

ゆめ

2017

4

Vol.650

平成29年4月10日発行
(毎月10日発行)

《経営談話室》

地元密着の百貨店を 一步一步作りだしていく

株式会社そごう・西武 そごう千葉店 執行役員・千葉店長 豊田 隆信

《特集》

千葉県内の企業を支える IT産業の発展に寄与する

公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 事務局長 鈴木 行夫

もくじ

- 2～ **経営談話室 159**
地元密着の百貨店を一步一步作りだしていく
 ～千葉の魅力を掘り起こしPRする
 株式会社 そごう・西武
 そごう千葉店 執行役員・千葉店長 **豊田 隆信**
-
- 30～ **特集**
千葉県内の企業を支えるIT産業の発展に寄与する
 ～公益社団法人によって各企業の信用力も向上
 公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 事務局長 **鈴木 行夫**
-
- 6～ **明日に架ける橋 アローズエンジニアリング株式会社**
 常務取締役 **野口 洋子**
-
- 8～ **トピックス 第77回通常議員総会**
-
- 14～ **平成29年2月期 千葉商工会議所景気動向調査**
-
- 22～ **わが社のイチオシ社員 株式会社 千葉測器**
 OA事務機システム営業部 技術推進部長 **半沢 利明**
-
- 5 <会員情報プラザ>
 16～ TIME LINE<タイムライン> 2017年2～3月の動き
 21 <ちばインフォメーション>
 24 <ジェットレポート> 加工食品の定義について
 25 <新入会員のご紹介>
 26 <まちづくり事業情報> 29年度まちづくり協議会の組織改編
 27 <なのはなひろば> 千葉商工会議所 女性会の活動
 28～ <YEG PRIDE> 千葉商工会議所 青年部通信
 33 千葉市美術館／千葉市科学館



今月の表紙

都市アイデンティティのシリーズ3回目は「千葉氏」です。1126年に、千葉常重が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移し、千葉を名乗ったことにより、千葉の都市としての始まりと言われていいます。また、昨年は「千葉開府890年」で、千葉氏サミットの開催や街中のポスターなどで「千葉氏」に対する機運が高まった年でもあります。千葉市では、6月1日を「千葉開府の日」として位置づけて、今後もさまざまな取り組みを展開していくそうです。

写真提供：千葉市（平成27年撮影）

編集者のひと言

春です。新年度が始まりました。春といえばやはり桜が最初に思い浮かびます。我が家の目の前の通りはちょっとした桜並木があり、毎年自宅から満開の桜を楽しんでいます。また、モノレールに乗ると千葉公園の桜を一望することができるので、桜が咲いているこの時期は、毎日がお花見の気分です。

（企画広報課 E.M）



千葉県内の企業を支えるIT産業の発展に寄与する

公益社団法人によって各企業の信用力も向上

公益社団法人千葉県情報サービス産業協会

労働人口減少の時代、経費削減や労働力の削減、また新サービスを提供できるIoTの活用はますます重要なものとなり、IT産業の活躍の場が層増加します。地域経済の発展を目指して、IT企業の成長を支援する公益社団法人千葉県情報サービス産業協会事務局長の鈴木行夫さんにお話を伺いました。



公益社団法人千葉県情報サービス産業協会

千葉県美浜区中瀬2-6
WBGマリブイースト21F

公益社団法人千葉県情報サービス産業協会とは

公益社団法人千葉県情報サービス産業協会は、千葉県において、県民が情報サービスの恵沢を広く享受できる環境づくりや情報サービス産業の健全な発展を図ることなどにより、高度情報通信ネットワーク社会の形成を推進して地域経済の発展及び公共の福祉の増進に寄与することを目的としています。

組織としては1998（平成10）年2月12日に設立され、2001（平成13）年4月1日社団法人に移行後、情報化に関する調査、研究、研修、広報活動等の事業を実施し、2013（平成25）年4月1日に公益社団法人となりました。現在はIT産業を中心に114団体（正会員：99団体、賛助会員：15団体）が会員として参加しています。



実践型人材育成システム

地方創生戦略の中で期待される I T 産業

千葉県情報サービス産業協会（CHISA）は I T 産業が地域社会に貢献できるように支援すると同時に、さらに業態の知名度をアップし、理解度を深める目的で設立され、活動しています。千葉県が策定し実施している「千葉県地方創生（総合戦略）」を踏まえ、公益社団法人の名に恥じない活動を展開していきたいと考えています。

特に、この戦略で、「地方創生の実現に向けた千葉づくり」の中の「未来を支える新産業等の振興」「中小企業の活性化支援」「地域の創意工夫による経済活性化の取り組みの促進」に重点を置き、様々な事業を展開しています。



合同企業説明会で学生にも周知徹底する

主な事業としては、10〜20社で構成される各部会が中心となり、実施しています。

部会ごとにご紹介しますと、まず、総務福利厚生部会は、協会運営の要として、協会主要行事や福利厚生制度を企画運営しています。具体的には、懇親会や交流会などをはじめとする会員の交流促進・会員団体従業員の福利厚生事業・経営基盤の確立整備に関する事業（助成金セミナーなど）・情報系大学との懇親会や合同企業説明会の実施・人材確保やインターンシップに関わる調査研究と実施支援・総会や賀詞交歓会の実施を手掛けます。

今年の新春賀詞交歓会では、講師にいすみ鉄道株式会社の鳥塚亮代表取締役社長に「I T 経営者に必要な発想の転換について」をご講演いただきました。また会員のうち28社が参加して「CHISA 合同企業説明会」を県内大学・専門学校で学内説明会を開催しました。単独ではなかなか学生に周知が難しい中小規模の I T 企業も優秀な人材が確保できると意欲的に参加しています。

県や自治体と連携したセミナーやフォーラムを開催

また事業企画部会では、業界の将来動向を見据え、整備すべき経営基盤の調査研究を行い、スピード化された時代への対応をはかることを目的として、千葉県や自治体と連携してセミナーやフォーラムなどを開催しています。

平成28年度の大きな行事としては、千葉県地域 I T 化推進協議会との共催で「ちば I T 利用活用フォーラム」を開催しました。オープンデータを積極的に取り入れている千葉市をはじめ I T を利用した自治体の取り組みについての発表や企業の事例発表やパネルディスカッションが行われました。

こうした行事などが目指すのは、会員企業が単独ではなく、当会を通じて企業が研究機関や大学と産学連携をしながら新たな事業を創出することです。そのため「旬」なテーマが重要となりますが、現在は中長期的なテーマとして「医療・健康・福祉と I T」を掲げています。会員の中には、それほど大きくはない企業でも、こうしたテーマに即して事業アイデアをうち出して、活躍の場を得た例もあり、今後も各企業が成長できる機会やヒントを提供していきたいと考えています。



首都圏情報団体合同ビジネス交流会



若手交流会

新人研修や若手社員協働の研究 会などで社の枠を超えた交流

また、教育は当会でも力を入れていきたい分野でもあり、教育技術部会も様々な活動を行っています。

学生を対象とした「卒業論文発表会」は千葉県内大学や専門学校、学校の学生を対象に毎年、千葉県や千葉市など4団体から後援を受けて実施しており、今年度は5つの大学・専門学校の学生

が堂々とレベルの高い発表を行いました。

学生を対象にした事業では「CHISAインターンシップ制度」があります。就職のミスマッチを防ぐ方策としてインターンシップ応募学生が激増していますが、当会としてもIT業界への一層の理解を深めてもらうために多くの学生を受け入れています。昨年度は11社に45人を受け入れました。

また、会員企業の若手社員が企業の枠を超えて、先端技術と共に研究しており、「新技術調査研究発表会」も開催しました。

さらに、「CHISA実践型新入社員研修」では会員各企業が採用した新入社員を対象に、プログラムからビジネスマナーまで多岐にわたる教育や講座を通学で受け、その成果を社で生かすOJT、フォローアップ研修の3段階で行っています。他社の新人とともに受講するため、同期意識も芽生えてその後の交流にもつながり、受講生の企業への定着率も上がっており、企業、受講生の双方から好評を得ています。

県外地域や他団体との 連携事業

コンソーシアム部会とは他団体との協働ビジネスマッチングの場を通じて会員増強をはかるこ

とを目的としています。またフットサルやゴルフなどのスポーツやレジャーを軸とした交流を推進し、当会の活性化をはかります。

昨年度は東京都情報産業協会（IIT）との共催で「首都圏情報団体合同ビジネス交流会」を実施しました。首都圏の名でこれまで東京・千葉・埼玉・神奈川・山梨が参加していました。今年度からは福島・茨城の団体が加わっています。

さらに当会とIIT（日本情報技術取引所）と協同組合シリ・ソフトウェアで「3団体合同若手交流会」を開催しています。共通テーマに基づくグループディスカッションや懇親会を行い、企業の枠を超えて刺激を受けつつ親交を深める機会となりました。ちなみにこの3団体では「千葉県3団体合同商談会」を開催し、「IT業での活用度の高い助成金」や新ビジネス提案などをテーマに講演が行われたほか、各社が自社パッケージサービスの発表などを行い、活発な営業交流がなされました。

そのほか広報部会では会誌「CHISAジャーナル」やHPなどを活用し、当会の活動を広く地域社会にPRし、会員相互あるいは対外企業との交流を図ります。

当会を利用して 自社の成長を目指す

当会の創立以降、現在もIT産業をめぐる環境は刻々と変化しています。ITは特別なものではなく、その存在はいわば「産業のコメ」、今ではほとんどの業種に行きわたり、その運営を支え、なくてはならない、日本人にとって主食のコメのようにならなくてはなりません。大企業だけでなく、零細企業でも給与計算などITを使用しています。あらゆる業務においてサポートしているのは、我々が手掛けているITだということをもっと打ち出し、その重要性を周知していきたい。

また、当会が公益社団法人ということで入会すると社に対する信用力が格段に向上したとの声も多くの会員から届いています。入会によってダイレクトに仕事が増えるわけではありませんが、当会の勉強会や交流会などに参加して、アイデアが生まれるヒントを得て、飛躍のきっかけにしたいだけだと思います。

千葉商工会議所のような大規模なセミナーや講習会を開いている団体とも連携して、会員相互の交流を深めることから始めていきたいですね。